



## 礼状

—A Note of Thanks—

Trudy Boyle taboyle@gmail.com

CL News: Vol. 18, No. 9 (September, 2016) から

今週私は70才になりました。今までは誕生日を熱列に祝ってきました。お祝い事や様々な出来事とともに、現在までの人生に多くの祝福を考える時間を持ちました。一番に特記すべき出来事は25年前にバージニアでデイビッド・K・レイノルズ博士と共にゴットフリードと私が受けた10日間のCLトレーニングです。

トレーニング後すぐに、CLを始める前をBCL (before Constructive Living)と始めてからをACL (after Constructive Living)と呼びました。25年後からは、森田と内観とCLの教えがスムーズに人生に十分に統合され、BCL、ACLの表現を使っていません。これらの教えが自分のためになったとき、友人のパトリシア・マドソンは、CLをオペレーティング・システムであると言いました。以来、この教えの素晴らしい贈り物に気づかずに過ごす日などありません。

もちろん、どんな素晴らしいオペレーティング・システムでもぶつかったり、ごまかしたりする場合があります。小さな「死のボール」は容赦なく回ります。オペレーティング・システムの調整に失敗したときも、私も絶え間なく回ります。それでも私はすべての誓いを守り損ねることは諦める口実ではないことを知っています。

森田の格言は何ですか？「山に登りながら百回諦めることができるが、坂を登り続けられる」

そこで、このノートを読んでくださる皆さんは、公にデイビッドへの私の感謝と恩義を認めていただきたいのです。彼のおかげで、CLを学ぶインストラクターの仲間や多くの人たちとの間で並外れた生涯の友人関係を作りました。長年、アメリカやカナダの様々な場所を訪れ、昨年夏にはグレッグ・クレッチの誕生日パーティーで優しい仲間たちと会い、貴重で幸せなCL同窓会のようなものでした。私の生涯でとても大切な親友、パトリシアとヘルガ・ビール。CLの橋によって結ばれ、遠くから私を励ましてくれる地球の反対側の日本の友人たち。私の心を明るくしてくれる人たちのネームリストが作れました。

デイビッドから学んだ教えのおかげで、日常生活の不快なことをこなしながら、病気の嵐の襲来、壊れた人間関係と修復、喜びと幸せ、あらゆる類の不確定なことへの必要な手段を手にかけています。

私は生きていることの驚きとすべての小さな細部、特に私を支援して、私の人生を可能にしてくれる人たちにもっと多くの注意を払います。私がときどき手元にペンをとって、このように書くのが遅くても、人々の支えを当然のこととは考えていません。

旅行するとき私たちは時々お互いを失望させますが、人の誕生と死のように、お互いの欠点を自然の出来事として認めるようになりました。寛大な心、親切、センスの良いユーモア、少しの音楽、自転車、そして私の愛する人たちと私の道を横切る人々と一緒に目的で満たされた生活は、私が浸っている人生の水です。私の行動を通してこのような贈り物に敬意を払えますように。

ありがとうございます、デイビッド！

まだ鳴るベルを鳴らしてください

あなたの完ぺきな提供を忘れてください

すべてのことには光がどのように入るかのひびがあります

(カナダ・オタワCLインストラクター)



[➡ 目次へ戻る](#)